

安全データシート

ネオペンチルグリコールジグリシジルエーテル

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : ネオペンチルグリコールジグリシジルエーテル
CB番号 : CB9243448
CAS : 17557-23-2
同義語 : ネオペンチルグリコールジグリシジルエーテル

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : エポキシ樹脂の合成中間体、高分子原料、合成樹脂の改良剤
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H21.3.27、政府向けGHS分類ガイダンス(H20.9.5版)を使用

物理化学的危険性

金属腐食性物質 分類できない

有機過酸化物質 分類対象外

酸化性固体 分類対象外

酸化性液体 分類対象外

水反応可燃性化学品 分類対象外

自己発熱性化学品 分類できない

自然発火性固体 分類対象外

自然発火性液体 分類できない

自己反応性化学品 分類対象外

可燃性固体 分類対象外

引火性液体 区分4

高圧ガス 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類対象外

健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 分類できない

生殖毒性 分類できない

発がん性 分類できない

生殖細胞変異原性 区分外

皮膚感作性 区分1

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B

皮膚腐食性・刺激性 区分2

急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない

急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分外

急性毒性(経口) 区分外

環境に対する有害性

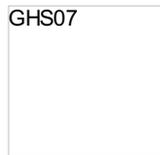
水生環境慢性有害性 分類できない

水生環境急性有害性 分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS07



注意喚起語

警告

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

眼刺激

皮膚刺激

可燃性液体

注意書き

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【廃棄】

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【保管】

皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け

ること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

火災の場合には、適切な消火方法をとること。

【応急措置】

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

ミスト、蒸気、スプレートの吸入を避けること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

裸火や高温のものから遠ざけること。-禁煙。

【安全対策】

3. 組成及び成分情報

| | |
|-------------------|---|
| 化学名又は一般名 | : ネオペンチルグリコールジグリシジルエーテル |
| 別名 | : 1,3 - ビス(2,3 - エポキシプロポキシ) - 2,2 - ジメチルプロパン、(1,3-Bis(2,3-epoxypropoxy)-2,2-dimethylpropane)、2,2' - (2,2 - ジメチル - 1,3 - プロパンジイル)ビス(オキシメチレン)ビスオキシラン、(2,2'-(2,2-Dimethyl-1,3-propanediyl)bis(oxymethylene)bisoxirane) |
| 分子式 (分子量) | : C ₁₁ H ₂₀ O ₄ (216.28) |
| CAS番号 | : 17557-23-2 |
| 官報公示整理番号(化審法・安衛法) | : (2)-396 |
| 分類に寄与する不純物及び安定化添加 | : データなし |
| 純度又は濃度範囲 | : 100% |

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぐこと。

水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

目に入った場合

目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性症状

眼:発赤、痛み。

皮膚:発赤。

吸入:咳、咽頭痛。

最も重要な兆候及び症状

眼、皮膚を刺激する。

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水、水噴霧

特有の危険有害性

爆発性過酸化物を生成し、爆発することがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

激しく加熱すると燃焼する。

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

特有の消火方法

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

容器が熱に晒されているときは、移さない。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

密閉された場所に立入る前に換気する。

関係者以外の立入りを禁止する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

全ての着火源を取り除く。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和

不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

眼に入れないこと。

ミスト、蒸気、スプレアの吸入を避けること。

皮膚との接触を避けること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

消防法の規制に従う。

接触回避

『10.安定性及び反応性』を参照。

保管

技術的対策

消防法の規制に従う。

混触危険物質

『10.安定性及び反応性』を参照。

保管条件

容器を密閉して冷乾所で保管すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

容器包装材料

データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会(2007年版)

未設定

ACGIH(2007年版)

未設定

設備対策

作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

| | |
|-------|-------|
| 形状 | 液体 |
| 色 | 淡黄色 |
| 臭い | その他 |
| pH | データなし |
| データなし | |

logP = 0.23 : SRC (access on 12. 2008))

水 : 2.27x10⁴mg/L (25℃) : SRC (access on 12. 2008)

1.05 (20℃) : Chapman (2008)

データなし

7.5 (空気 = 1) : ICSC (1998), ICSC(J) (1998)

0.0133mmHg (25℃) : SRC (access on 12. 2008)

データなし

データなし

データなし

88℃ : Sax (11th, 2004)

107~108℃ : Chapman (2008)

データなし

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

107~108℃ : Chapman (2008)

引火点

88℃ : Sax (11th, 2004)

自然発火温度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

0.0133mmHg (25℃) : SRC (access on 12. 2008)

蒸気密度

7.5 (空気 = 1) : ICSC (1998), ICSC(J) (1998)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

1.05 (20℃) : Chapman (2008)

溶解度

水 : 2.27x10⁴mg/L (25℃) : SRC (access on 12. 2008)

オクタノール・水分配係数

logP = 0.23 : SRC (access on 12. 2008))

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

分解温度まで加熱すると、酸性の刺激性ヒュームを発生する。
爆発性過酸化物を生成し、爆発することがある。

避けるべき条件

加熱

混触危険物質

強力な酸化剤

危険有害な分解生成物

爆発性過酸化物

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットにおけるLD50値 4500 mg/kg (Patty (5th, 2001)) に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。

経皮

ラットにおけるLD50値 >2150 mg/kg (Patty (5th, 2001)) に基づき、区分外(国連分類基準は区分5または区分外)とした。

吸入

吸入(ミスト): データなし

吸入(蒸気): データなし

吸入(ガス): 液体である。

皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いたドレイズ試験において、「中程度」の刺激性がみられ、ドレイズスコア8ランク中2.3位を示した(Patty (5th, 2001))。また、EU分類においてもR38(区分2相当)(EU-Annex I , access on 12. 2008)であることから、区分2とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギにおいて、「洗眼後も僅かな刺激性」がみられている(Patty (5th, 2001))ことから区分2Bとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性:モルモットにおいて「強力な感作性あり」(Patty(5th,2001))と記述がある区分1とした。

呼吸器感作性:データなし

生殖細胞変異原性

マウスを用いるin vivo変異原性試験(1.5g/kgの用量の週3回の8週間の皮膚適用、優性致死試験)、マウスを用いた体細胞in vivo変異原性試験(小核試験)の陰性結果(Patty (5th, 2001))に基づき、区分外とした。in vitro変異原性試験(エームス試験、ヒト培養白血球を用いたDNA修復試験)(NTP DB (access on 12. 2008), Patty (5th, 2001))において、複数指標の陽性結果がある。

発がん性

マウス(C3H)を用いた生涯試験(経皮投与; 0.94-3.75mg/mouse)において、1.87mg群で6/50、3.75mg/kg群で10/50の割合で、皮膚がんを発症した(Patty (5th, 2001))結果だけしかなくデータ不足で分類できない。

生殖毒性

データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

データなし

水生環境慢性有害性

データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

該当しない

航空規制情報

該当しない

UN No.

該当しない

国内規制

陸上規制情報

消防法の規制に従う。

海上規制情報

該当しない

航空規制情報

該当しない

特別安全対策

重量物を上積みしない。

漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

15. 適用法令

消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA:国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

- 【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>
- 【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【11】 HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【10】 有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【9】 ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【8】 eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en
- 【7】 ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【6】 ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【5】 カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【4】 NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) <https://www.nite.go.jp/>
- 【3】 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【2】 化学物質審査規制法 (化審法) <https://www.env.go.jp>
- 【1】 労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。